

港湾振興便り



2012. 9
第65号

目次

1 ポートエッセイ 「フランス訪問で感じた日本文化への熱い視線」 ～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 東京港「鳥の島再発見ツアー」を実施しました
(関東地方整備局 東京港湾事務所)
- 「白山」が酒田港で油回収訓練及び一般公開を実施
(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)
- 西日本最大級の人工海浜「ベイサイドビーチ坂」みなとオアシスに正式登録
(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)
- サンフラワー待合所前の清掃、花壇の整備を行いました
(九州地方整備局 志布志港湾事務所)
- 復帰40周年記念 石垣港みなとまつりの開催
(沖縄総合事務局 石垣港湾事務所)
- みなとフェスタ2012
(沖縄総合事務局 平良港湾事務所)

3 お知らせ

1 ポートエッセイ 「フランス訪問で感じた日本文化への熱い視線」
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

8月26日から9月1日までフランスを訪問してきた。「第3回日仏自治体交流会議」への出席が主な目的だったが、首都のパリではこの5月にナント市長からフランス首相になった、ジャン=マルク・エロー首相と意見交換した。最近是中国・韓国などとの関係がぎくしゃくしている中で、フランスでは随所で日本文化への熱い視線を感ずることができた。

今回のエロー首相との面談は、新潟市がナント市と姉妹都市であり、私も市長時代のエロー氏と何回かお会いしている縁でお時間がいただけた。エロー首相は「フランスは東アジアに関心を深めている。特に日本との関係は重要だ」と話された。来年ナント市が欧州のグリーンキャピタル(環境首都)に指定されており、環境面での連携も強く望んでいた。

歴史・文化や持続可能な発展を重視する「創造都市」の道をいち早く歩んでいるフランスの諸都市は、クールジャパンと呼ばれる日本の創造的文化にも注目している。

新潟とナントは姉妹都市になってからまだ5年もたたないのに、マンガ・アニメや踊りなどさまざまな文化交流が行われている。特に最近では若者交流が盛り上がり、ナントの国際親善交流団体には「青年部」ができ、150人のメンバーは「ぜひ日本、新潟を訪れたい」と語っている。

また、シャルトル市で開かれた日仏自治体交流会議でも、文化を軸に交流発展を望む声が高く、これからは姉妹都市という1対1の関係から、ネットワーク交流へ発展させる必要性が論じられた。

EUの中でも文化創造で存在感を示してきたフランスが、日本文化に熱い視線を向けている。閉塞感の漂う日本の中で、このことを我々はもっと意識すべきかもしれない。

*:

2 トピック

*:

●東京港「鳥の島再発見ツアー」を実施しました。

(関東地方整備局 東京港湾事務所)

平成24年8月7日(火)お台場海浜公園内の無人島「鳥の島」で、海岸清掃活動・野鳥の観察・島内探検を実施しました。

鳥の島は、昭和の初めに「島式防波堤」として東京港の芝浦ふ頭や日の出ふ頭を波浪から守る目的に建設されました。現在では、お台場海浜公園の一部として、貴重な緑の風景・野鳥の生息域となっています。

通常、渡航することのできない「鳥の島」では、漂着するゴミが溜まり回収されない状況にあります。国土交通省東京港湾事務所では、2006年より近隣のお台場学園および一般参加者の御協力をいただき、鳥の島の清掃活動と島内の観察を行う「鳥の島再発見ツアー」を実施しています。

今年度は、参加者100名により炎天下の中、ゴミ200kg(主にペットボトル・ビン・缶など)を回収しました。また、カワウ・アオサギなどの野鳥観察や島内の繁殖地(コロニー)を多数観察することができました。



鳥の島全景



清掃活動の状況1



清掃活動の状況 2



記念撮影

●「白山」が酒田港で油回収訓練及び一般公開を実施

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

新潟港湾・空港整備事務所所属の大型浚渫兼油回収船「白山」が、油流出事故に備えた外洋航海訓練の一環として、7月27日山形県酒田港で油回収訓練を実施しました。翌28日には港周辺を会場として開催された「2012みなとオアシスマつり」において船内の一般公開を行い、705名の来場者がありました。



油回収訓練中の「白山」



一般公開の様子

●西日本最大級の人工海浜「ベイサイドビーチ坂」みなとオアシスに正式登録

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

広島市に最も近く西日本最大級の人工海浜を中核施設として、多くの来訪者の賑わいの場となっている「みなとオアシスベイサイドビーチ坂」が平成24年8月26日、中国地方としては8番目、全国では66番目の「みなとオアシス」として正式登録されました。

当日は「ビーチフェスタ in 坂」の開会式に併せて登録証の交付を行い、その後、オリンピックビーチバレー日本代表 佐伯選手、徳野選手、楠原選手の豪華講師を迎えてのビーチバレースクールや、混合4人制ビーチバレー大会・中国ブロックビーチバレー選手権が開催され、炎天下の中、選手達の白熱した試合が繰り広げられ、夏休み最後の休日、ビーチは熱く盛り上がりました。

「みなとオアシスベイサイドビーチ坂」は、海水浴シーズンだけでなく夏季以外でもウィンドサーフィンなどマリンスポーツを行うことが出来、年間を通じて利用が出来る施設です。

今後ともメインイベントである「リオ de ビーチカーニバル」を継続させながら年度を通じてより充実したイベントに発展させ、更なる賑わいの創出を目指しています。

中国地方整備局としても各「みなとオアシス」における「みなとまちづくり」の取組等について積極的に協力・支援を行っていきたいと考えております。



登録証 授与式



佐伯選手によるビーチバレースクール

【みなとオアシスベイサイドビーチ坂のHP】

<http://www.cgr-minato-oasis.jp/saka/>

●サンフラワー待合所前の清掃、花壇の整備を行いました

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

7月21日(土)に志布志港のサンフラワー待合所前の清掃、花壇の整備を行いました。この活動は、志布志市を中心に活動する『NPO法人 三方良(さんぼうりょう)』が、お盆休暇に来鹿される方々に少しでも気持ちよくお越しいただこうと、呼びかけたものであり、約50名の方々が参加され、花壇の草取り、花苗の植え込み、待合所前の清掃や草刈りを行いました。



花苗の植え込み作業



花苗で志布志の「志」をつくりました。

●復帰40周年記念 石垣港みなとまつりの開催

(沖縄総合事務局 石垣港湾事務所)

平成24年7月15日～16日の2日間、復帰40周年記念石垣港みなとまつりを開催しました。

今回は、復帰40周年を迎えて例年より規模を拡大して、みなとまつりを実施しました。

みなとまつりでは、大型クルーズ船「アクエリアス」の船内見学会、ヨットセーリングの体験航海、みなとのミニブロックづくり、グルクンつかみ取り、「石垣港」パネル展など様々なイベントをとおして、大勢の方に「みなと」を親しんでもらいました。また、夜の部では船上ライブや打ち上げ花火などもあり、会場は例年より熱気に満ちあふれていました。来年は、今年以上に来場される方が石垣港に親しんでもらえるように工夫をこらして石垣港みなとまつりを盛り上げていきたいと考えています。



ミニブロックづくりの様子



グルクンつかみ取りの様子



アクエリアスとヨットセーリング

●みなとフェスタ2012

(沖縄総合事務局 平良港湾事務所)

毎年恒例の行事となりました平良港の「みなとフェスタ」は、毎年7月第3月曜日の「海の日」に関するイベントとして行っています。

「海の日」は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」ことを趣旨としている国民の休日です。この「海の日」の趣旨を広く国民の皆様に理解していただくために、毎年7月1日から31日までの1ヶ月間を「海の月間」として、全国各地で海に親しむための取組や、施設見学等の様々なイベントが展開されています。

平良港での主催者である宮古島市港湾課は、毎年イベント内容に趣向をこらしており、今年はそうめん流しならぬ「もずく」流しや、新たに同市の水産課にも参加してもらい「タッチプール」を行うことで、大人も子供も楽しめるイベントになりました。

平良港湾事務所は、港湾施設の見学会で協力させていただきましたが、申し込み多数のため全ての方を案内できなかったのが反省点です。(今年は、40名の方を案内しました。)

